

今日のキーワード 「街角景気」は2カ月連続で改善（日本）

「景気ウォッチャー調査」は、内閣府が毎月実施する景況感に関する調査で「街角景気」調査とも呼ばれます。タクシー運転手やコンビニエンスストアの店長、レストラン経営者など、景気に敏感な約2,000人が調査対象（ウォッチャー）です。3カ月前と比べたその時点の景気と、2～3カ月前の景気予測を調査します。算出された指数から好不況を判断する際の中立水準は、50ポイントです。

ポイント1

現状判断DIは2カ月連続で上昇

13カ月連続で50を下回っている、家計は低下も企業・雇用は上昇

- 2016年8月の「景気ウォッチャー調査」によると、「現状判断DI」は、前月比0.5ポイント上昇の45.6となりました。景況感の節目である50を依然として下回っていますが、前月比ではわずかに改善しています。項目別では、小売り関連を中心に家計動向関連が低下しましたが、企業動向関連や雇用関連DIは上昇しました。
- 街角の声には、「景気の先行き不安から、消費者が節約するようになっており、1点単価が前年を下回ってきている」（中国・スーパー）や、「引き合い、商談件数、受注量共に増加傾向にある。IT関連市場の投資意欲を感じる」（北関東・情報サービス）、「離職者が減少し求人は増加している。正社員求人も少しずつ増えている」（北関東・職業安定所）などがありました。

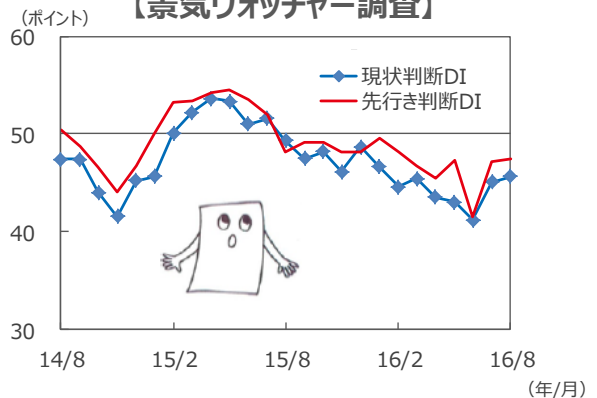
ポイント2

先行き判断DIも小幅改善

経済対策によるマインド好転に期待

- 2～3カ月後の景気を聞いた「先行き判断DI」は、前月比0.3ポイント上昇の47.4となりました。2カ月連続の改善です。項目別では、「現状判断DI」と同様に、家計動向関連が低下し、企業動向、雇用関連が上昇しました。
- 街角の声には、「購買意欲を刺激する要因が乏しく、為替や株価の先行きにも不透明感があり、高額所得者も消費を控えるおそれがある」（東海・百貨店）や、一方で「補正予算の執行に加えて、災害復旧関連工事が本格化してくることから、今後の景気はやや良くなる」（北海道・建設機械リース）との期待も見られました。

【景気ウォッチャー調査】



(注) データは2014年8月～2016年8月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

大型経済対策の効果発動等による消費者心理の回復に注目

- 今回の調査では現状・先行きともに前回よりも小幅ながら上昇しましたが、ともに中立水準を未だに下回っています。項目別では家計関連の停滞が目立っています。
- 今後は、日銀による更なる緩和への期待が続くことや、政府の大型経済対策の発動等が見込まれます。これらによって消費者心理が回復していけるかが注目されます。

ここもチェック!

2016年8月31日 最近の指標から見る日本経済（2016年8月）
2016年8月31日 今年の夏は「猛暑」（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。